

令和元年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立新町小学校

この文化財ニュースでは、今まで市立河辺小学校まで紹介してきました。これから紹介する市立新町小学校は、前回の河辺小学校と同じような歴史を持つ学校です。

江戸時代から新町地区には、新町村がありましたが、明治 22(1889)年の町村制の施行により、新町地区は霞村の一部となりました。そのような歴史から、学制が發布されてすぐの明治 6 (1873)年には新町村だけの学校が作られました。その後、霞村ができたため、現在の第三小学校の新町分校という形で 100 年近く存続しました。そして新町分校の廃校後、昭和 48(1973)年に「青梅市立新町小学校」が新たに作られました。

その辺のところをもう少し詳しく説明します。

明治 5 (1872)年 8 月 2 日(旧暦)、「一般の人民邑ニ不学ノ戸無ク、家ニ不学ノ人無カラシメン事ヲ期ス、…」という「学制」が發布されました。この時点では「新町村」でしたので、村にある臨済宗の寺院「東禅寺」を借用して「明倫学舎」を立ち上げます。この時の児童数は 68 名でした。旧霞地区は他の地区より村の数が多かったため、「明倫学舎」をはじめ、谷野に「正梯学舎」、師岡に「蒲廬学舎」、今井に「神随学舎」、藤橋に「神教学舎」、塩船に「耕文学舎」の 6 つの学校ができました。どこにできたか不明の学校もありますが、ほとんどがお寺を間借りしてできた学校です。新町村にできた「明倫学舎」は、この後「新町学校」・「新町尋常小学校」と名称を変えていきます。そして、明治 22(1889)年に「町村制」が發布され、根ヶ布村・上師岡村・下師岡村・野上村・大門村・塩船村・谷野村・木ノ下村・今寺村・藤橋村・今井村・新町村の 12 ヶ村が合併して霞村ができると、これらの学校が順次統廃合されていきます。

明治 39(1906)年、今の市立第三小学校の場所に「霞村立霞尋常高等小学校」ができると、大門から遠い根ヶ布(師岡)や今井・新町は名称は変わりますが、大門にある霞尋常高等小学校の分教場(師岡分教場・今井分教場)として存続していきます。新町尋常小学校は「霞尋常高等小学校新町分教場」として昭和 43(1968)年まで(途中から分校の名称に変更)存続していきます。

昭和 26(1951)年、旧青梅町・調布村・霞村が合併し、青梅市が誕生(東京都で 5 番目の市)すると、霞尋常高等小学校は、昭和 28(1953)年、青梅市立第三小学校に名称を変えます。その新町分校として 1・2 年生までの子どもたちがここで勉強し、3 年生から本校である市立第三小学校に通うようになりました。その当時の新町地区は、青梅街道の両側だけに人家がある状態で、第三小学校のある町屋街道のところまでは全く人家のない畑の中の砂利道を通して通学してきました。小学 3 年生の子どもたちがそのような中を大門にある本校まで通ってくるのは大変だったであろうと想像されます。

そして、昭和 40(1965)年から、市立第三小学校の校舎改築工事が始まります。今までの木造 2 階建ての校舎から、もっと大勢の児童を収容できる 3 階建ての鉄筋の防音校舎への改築です。3 期にわたって実施された改築工事(校舎・体育館全ての工事)も昭和 47(1972)年に完成し、落成記念式典が行われました。この第三小学校の校舎改築に合わせて周辺の地域も区画整理事業が行われ、人口がどんどん増加していきました。

昭和 43(1968)年、第三小学校の第 1 期工事が終わると同時に、100 年近く続いた明倫学舎の流れをくむ新町分校は閉鎖となりました。

以上が過去の新町地区に関する学校の歴史です。

青梅市では都市計画に従って、昭和 30 年代から東青梅地区を始めとして河辺地区・新町地区などの市街化区域区画整理事業を進めていきました。

昭和 43(1968)年、新町分校・今井分校が廃止され、1 年生から重いランドセルを背負って本校に通うようになりましたが、そのころには、新生「青梅市立新町小学校」の建築工事が始まっていました。

昭和 48(1973)年 4 月 1 日に新生「青梅市立新町小学校」が開校します。場所は、新町分校より 300m 程東側の富士塚の前です。児童数 314 名(1 年生～5 年生)教員 17 名でのスタートです。校舎は工事中でまだ完成しておらず、プレハブの体育館で開校式が行われました。新町地区の土地区画整理事業は昭和 51(1976)年からですので、開校した時は、まだ今のような道路ができていなかったため、本当に畑の中にポツンとある学校というような感じだったのではないかと想像されます。

それからの新町地区の発展は、目を見張るようなスピードで進んでいきます。開校から 30 年後の平成 15(2003)年には、30 学級 1000 人を超える児童数になり、更に増加の傾向が見られていました。そこで、隣接する霞台小学校や若草小学校にも児童を引き受けてもらえるよう通学区域の見直しが行われています。

もともとの新町の人家は鈴法寺跡から桜株の辺りまでで、それより東側は瑞穂町の長岡境近くまで人家はありませんでした。また、新町土地区画整理事業が終了し、平成 10(1998)年に、今まで野上・大門・今寺・藤橋・今井などに属していた一部の地域が、新たに新町に変わったため、新町の名の付く面積が大幅に増えたことも学校の児童数が増えた理由の一つに挙げられるものと思います。個人的な見解ですが、これだけ広大な新町地区に学校が 1 つというのは少し無理があるようにも感じましたが、出生数の減少や学区の線引きの見直しなどもあり、現在は 21 学級 721 名まで減ってきています。通学区域の見直しによって、新町 1 丁目、2 丁目および 3 丁目の一部は、新町小ではなく、霞台小や若草小の学区に変更されました。

今年は御代替わりがあり、平成から令和へと年号が変わりましたが、創立以来 46 年、あと 4 年で 50 周年を迎える現在の新町小学校です。現在、「コーディネーショントレーニング地域拠点校」の指定を受け、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、第 12 代仁藤茂則校長先生を中心に、「豊かな心、健康、体力、意欲をはぐくむ教育」を進めています。

400 年前に新町村を開村した吉野織部之介のように、フロンティアスピリット旺盛な子どもたちを新町小学校から輩出すべく教職員一丸となって取り組んでいるとのこと。

(文責 神森 正)

参考文献：青梅市史、青梅市教育史、新町小学校創立 30 周年記念誌